

		音 楽 研 究 会			部 会 記 録	
日時		令和3年 5月12日(水) 15:00~16:45				
部会名		研修部 授業実践部会・管楽器部会(二部会合同)			主任	森野 淳
参加数		36名(二部会合計)	司会	森野 淳	記録	小松 亜紀
研 修 内 容	二部会合同「学習の主題の考え方・授業のつくり方」 講師：横浜市立森の台小学校 校長 大幸 麻理先生 提案：研修部 場所：横浜市立森の台小学校 音楽室 及び zoom ハイブリッド開催					
	【横浜市の音楽科学習の基本的な進め方について】					
	・学習の主題とは、新学習指導要領に示された内容をもとに、ねらいや内容、活動を簡潔に示したものである。					
	・主題の目標を達成するために適した教材曲を複数回設定する。同一学年で、同じ「学習の主題」の下で指導を複数回行う。					
	・同じ教材曲を複数の主題で扱うなど、いろいろな主題、領域をつなげて設定し、学習を深める。					
	・学習の主題をもとに年間計画を立てると、学習の流れや教材のつながりがつかみやすくなる。					
	【常時活動について】					
	・短時間で継続的な学びになるようにする。					
	・例として、リズム打ち、歌唱(今月の歌など)、身体表現、鑑賞(季節の曲や、授業で取り扱った曲のカバー曲)などが挙げられる。					
	又、これらを複合的に活用することで、音楽科における資質・能力を養う。					
	【コロナ禍での日々の授業】					
	・距離をとり、広いところで、マスクを必ずつけて、同じ方向を向いて歌う。					
	・短時間(15分以内を目安に)何度も何度も歌いまくることは避け、人数も列ごと、フレーズごとなどに区切って活動する。					
	・リコーダーや鍵盤ハーモニカ等は、距離をとり、短時間なら可能。給食と同様、マスクをはずしたらしゃべらない。共用楽器は、使用後にできる範囲で消毒をする。					
	・音楽朝会は、演奏をあらかじめ録画し、放送する発表の方法もある。					
	・できる範囲で教育活動を続けることが大切。					
	【大幸先生より】					
	「こいのぼり」・・・主題「曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、響きのある声で歌おう」					
	この曲の特徴は何か?一番伝えたいことは何か?を指導する側が、しっかり把握して授業を組み立てることが必要。この曲の場合、「符点のリズム」が特徴である。符点なしバージョンで歌い、比較をして、さらにもう一度符点をつけて歌う。表情や歌う姿から、違いを感じ取っていることが、よくわかる。子ども自身が実感しながら曲の特徴を理解できるようにしたい。					
	また、3段目から4段目の「たかく・・・」に向かうとき、自然に音が豊かになる。そう歌いたくなる。そこには音の跳躍があり、音の高低が持つエネルギーが存在していることも伝えていけるとよい。					
	即興ボディーパーカッション「カレーライス」					
	環境によっては、大きな声で歌うことができない場合がある。そんな時に、コロナ禍での常時活動としてボディーパーカッションを取り入れるのもよい。					
	例えば、「カレー」を題材にすると、具材のグループをつくり、グループごとにリズムを考える。リズムをどんどん重ねていき、最後は全員同時に「いただきます!」で締めくくる。					

	活動の制限もあり、大変な中ではあるが、活動の工夫をしながら、音楽の教育活動を続けていけるとよい。
--	---

	【役員の先生方のご紹介と、研修部推進委員と一斉授業研究会の授業者の紹介】
--	---